

# 令和4年産 美里地区の稲作情報

宮城県美里農業改良普及センター 第8号 令和4年9月9日発行  
 TEL:0229-32-3115 FAX:0229-32-2225  
<http://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



## 1. 気象経過

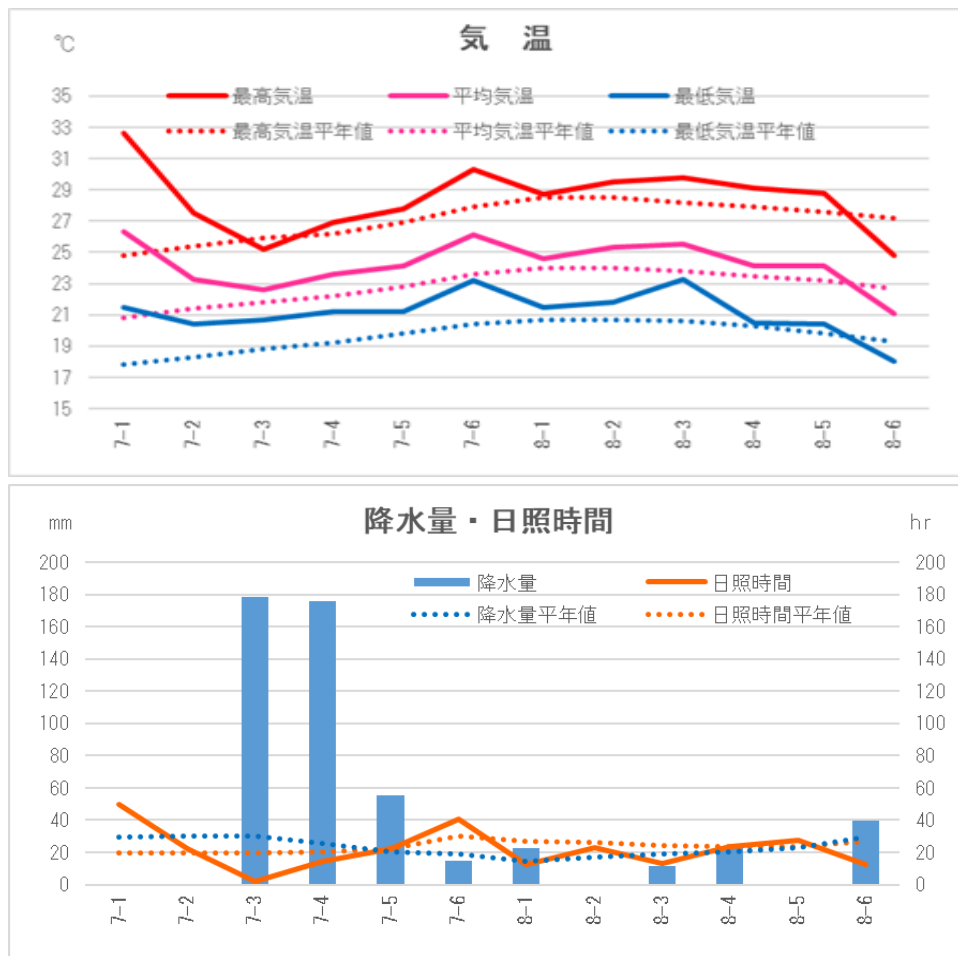


図1 7月から8月の半旬別気象経過 (鹿島台アメダス)

### 【気温】

全体的に高く推移し、7月第1半旬、第6半旬の平均気温は平年よりそれぞれ5.5°C、2.5°C高くなりました。

### 【降水量】

7月第3～第4半旬にそれぞれ170mm以上の大雨を観測しました。当初、東部南部の梅雨入り、梅雨明けは「6月15日」「6月29日」と発表されていましたが、9月1日に「6月6日」「特定できず」に修正されています。

### 【日照時間】

7月第3半旬、8月第1半及び第6半旬で、平年の50%以下となりました。

## 2. 出穂の状況

表1 管内の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
本年	7月29日	8月3日	8月13日
前年差	1日遅い	1日遅い	3日遅い
平年差	平年と同じ	2日遅い	4日遅い

※出穂始期・出穂期・穂揃期は、出穂期(全茎の50%以上が出穂)に達したほ場の面積が、それぞれ水稲作付見込み面積の5%・50%・95%以上となった日。

7月第4半旬から8月第5半旬まで気温が高く経過したことから、出穂期は前年及び平年と同程度となりました。

7月15～16の大雨で浸冠水の被害を受けたほ場では、出穂の遅れが見られたことから、穂揃期は前年より3日、平年より4日遅くなりました。

### 3. 出穂後 25 日調査結果

表2 出穂後25日調査

	調査地点	品種	区分	田植日	栽植密度 (株/m <sup>2</sup> )	出穂期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒/本)	粒数 (百粒/m <sup>2</sup> )	止葉葉色 (SPAD値)
移植	涌谷 (小塚)	ひとめぼれ	本年値	5月6日	19.0	8月2日	91.1	18.7	505	75.0	379	31.0
			前年比・差	2日早い	102%	4日遅い	110%	94%	113%	104%	118%	87%
			県平年比・差	7日早い	-	-	109%	107%	106%	104%	110%	94%
	田尻 (桜田高野)	ひとめぼれ	本年値	5月5日	15.9	8月1日	96.4	18.7	440	66.9	295	27.9
			前年比・差	2日早い	99%	4日遅い	111%	100%	95%	98%	93%	96%
			4ヶ年平均比・差	6日早い	98%	1日早い	111%	100%	99%	87%	86%	92%
	鹿島台 (広長)	ササニシキ	本年値	5月12日	15.4	8月8日	83.0	18.0	428	82.2	352	31.0
			県平年比・差	2日遅い	-	-	103%	103%	89%	115%	102%	94%
	鹿島台 (木間塚)	だて正夢	本年値	5月15日	16.1	8/8	100.8	19.4	359	94.6	339	33.4
			前年比・差	2日早い	98%	4日遅い	111%	103%	92%	124%	114%	94%
			平年比・差	平年と同じ	83%	2日遅い	111%	103%	87%	112%	98%	93%
	南郷 (和多田沼)	金のいぶき	本年値	5月6日	16.1	8月9日	97.1	21.7	430	89.7	386	30.2
前年比・差			4日遅い	98%	7日遅い	111%	105%	94%	122%	115%	92%	
過去平年比・差			2日遅い	99%	3日遅い	112%	106%	100%	116%	117%	92%	
直播	小牛田 (荻塚)	ゆみあずさ (鉄コーティング湛水直播)	本年値	5月3日	17.4	8月13日	90.1	19.9	527	89.5	474	38.8
			前年比・差	2日早い	104%	7日遅い	113%	104%	104%	117%	150%	109%

※平年値は過去5年間の平均値。過去平均は5年未満の平均値。

- ・ 稈長、穂長は前年及び平年より長くなっています。
- ・ 穂数及び粒数については、田尻のひとめぼれ、鹿島台のササニシキを除き前年及び平年を上回り、前年より5割弱多いほ場もあります。
- ・ 止葉葉色は、いずれのほ場も、前年及び平年を下回っています。
- ・ 一部で紋枯病、穂首いもちが見られるほ場があります。

表3 出穂後25日の沈下粒数調査 (古川農試調査)

品種名	田植日	出穂期	沈下粒数割合(%)	
			本年値	平年比
ひとめぼれ	5月1日	8月2日	82.2	98
	5月10日	8月6日	87.4	104
	5月20日	8月13日	88.4	104
ササニシキ	5月10日	8月2日	76.8	98
	5月20日	8月10日	79.1	103

沈下粒数歩合は平年並～やや高くなっており、登熟は順調に進んでいるとみられます。

注 平均穂数を使用した4株の平均値

### 4. 積算気温からみた刈取適期

表4 品種別刈取適期の目安

品種	目安となる積算気温	出穂期								
		7/28	7/30	8/1	8/3	8/5	8/7	8/10	8/13	8/20
ひとめぼれ まなむすめ	940°C(早限)	9/5	9/8	9/10	9/13	9/15	9/17	9/22	9/26	10/6
	1,000°C	9/8	9/11	9/13	9/16	9/18	9/20	9/25	9/29	10/10
	1,100°C(晩限)	9/12	9/15	9/17	9/20	9/22	9/25	9/30	10/4	10/16
ササニシキ	930°C(早限)	9/5	9/7	9/10	9/13	9/15	9/17	9/21	9/25	10/5
	1,000°C	9/8	9/11	9/13	9/16	9/18	9/20	9/25	9/29	10/10
	1,150°C(晩限)	9/14	9/17	9/20	9/23	9/25	9/28	10/3	10/8	10/19
つや姫	1,000°C(早限)	-	-	-	9/16	9/18	9/20	9/25	9/29	10/10
	1,100°C	-	-	-	9/21	9/23	9/26	10/1	10/5	10/17
	1,200°C(晩限)	-	-	-	9/26	9/28	10/1	10/6	10/11	10/23
だて正夢	1,000°C(早限)	9/8	9/11	9/13	9/16	9/18	9/20	9/25	9/29	10/10
	1,050°C	9/11	9/13	9/16	9/18	9/21	9/23	9/28	10/2	10/13
	1,100°C(晩限)	9/12	9/15	9/17	9/20	9/22	9/25	9/30	10/4	10/16
金のいぶき	1,050°C(早限)	9/11	9/13	9/16	9/18	9/21	9/23	9/28	10/2	10/13
	1,100°C	9/13	9/15	9/18	9/21	9/23	9/26	10/1	10/5	10/17
	1,150°C(晩限)	9/14	9/17	9/20	9/23	9/25	9/28	10/3	10/13	10/19

※鹿島台アメダスの平均気温(9月5日までは本年の実測値。9月6日以降は準平年値を使用。)の積算から予測。

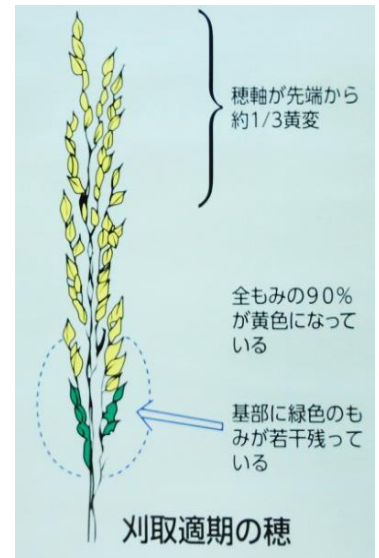
## 5. 今後の管理

### (1) 適期収穫

☆コンバイン収穫作業では、収穫時の籾水分が高すぎると、籾や玄米に損傷を与え、胴割粒が増加し、品質低下の原因となります。

**籾水分 25%以下を目安に収穫**しましょう。

☆**籾の90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から1/3程度黄変したときが刈取適期**なので、葉色にまどわされないよう穂をよく観察しましょう。



< 籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定 >

ひとめぼれでは、平均的穂数株(枝梗数8)の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます。(図2参照)。

図2 刈取適期の穂

- ◆成熟段階Ⅰ：第1位籾が急速に黄化開始。
- ◆成熟段階Ⅱ：第1位籾がほぼ(90%)黄化。(7日以内で刈り取り早限)
- ◆成熟段階Ⅲ：第1位籾のほとんど(95%)黄化し、第2・3位籾が黄化開始(刈り取り早限)
- ◆成熟段階Ⅳ：第1位籾の黄化100%、第2・3位籾の30%が黄化(積算温度1000°C程度)
- ◆成熟段階Ⅴ：第2・3位籾が50%以上黄化(刈り取り晩限)

刈取適期

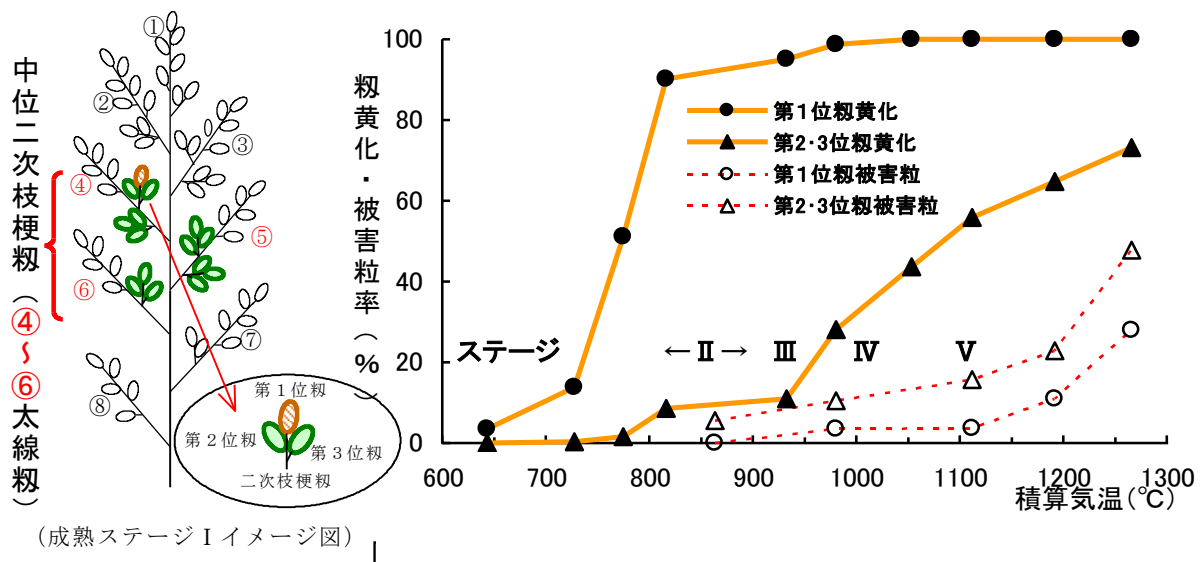


図3 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

☆今年度は稈長の長いほ場が多く、早くから倒伏しているほ場も見られます。

倒伏した稲や水口など、成熟期の遅れた稲は籾水分が高いため、収穫時期や籾袋を別にして他の正常な籾に混ぜないで乾燥しましょう。

☆刈り遅れは胴割れ粒、穂発芽、茶米などの被害粒の発生により玄米品質を低下させます。良食味米を確保するには、刈取り適期内にあっても、できるだけ早く刈取ることが望ましいです。

☆クサネムやツユクサは、脱穀時に種子が混入すると、揺動式比重選や粒径選でも取り除きにくいので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

☆鉄コーティング直播は特に倒伏しやすいので、適期に達したら早めに刈り取りましょう。

## (2) 乾燥・調製

☆コンバイン収穫した生籾を放置すると、発熱して変質米の原因となるため、速やかに乾燥機に張り込み送風循環しましょう。

☆倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・碎粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。

高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥（籾水分が20%以下になるまで乾燥した後、乾燥を一時停止し、籾の水分むらが少なくなってから再度仕上げ乾燥を行う）を行い、水分むらや胴割米の発生などを抑えましょう。

☆正確な水分測定のためには、玄米の測定サンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分測定することで過乾燥を防止しましょう。仕上がり玄米水分は14.5%~15.0%が目標です。

☆籾摺は肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾摺機の場合は、籾(品種)に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。

☆異品種の混入を未然に防ぐため、品種が替わる毎に機械類の清掃を徹底しましょう。

◎収穫時の籾水分(平均23%)

乾燥開始	17:00
乾燥機一時休止	22:00
籾水分	約19%
乾減率	0.8%/h

乾燥機一時休止	22:00~ 翌朝 7:00
---------	-------------------

乾燥再開	7:00
乾燥終了	11:00
玄米水分	15.5%

一時貯留槽に排出	11:00~
----------	--------

図4 二段乾燥の一例(山形農試)

9月1日から11月30日は秋の農作業安全確認運動期間です。  
慣れた作業でも、慌てず、焦らず、農作業事故防止に努めましょう！